

流行性耳下腺炎(ムンプス)

今回は流行性耳下腺炎（以下「ムンプス」）、一般には「おたふくかぜ」の名称で知られる病気についてお話しします。

ムンプスはムンプスウイルスの感染により発症します。耳の前から下あごにかけて存在する耳下腺という唾液腺に炎症が生じ、耳の周りのはれて大変痛くなります。1週間程度で軽快する予後良好の病気であり、一度感染すると終生免疫を得ると考えられていますが、実はさまざまな合併症を伴うことがあります。

小児で最も多い合併症はウイルス性髄膜炎です。ムンプスの1～3パーセントは髄膜炎を発症して高熱や激しい頭痛と嘔吐を来し、入院が必要となります。またムンプスに感染した人の約1,000人に1人が片側性の高度難聴を発症し、永続的な障がいが残ると報告されています。思春期以降では男性患者の14～35パーセントに精巣炎を、女性では約7パーセントに卵巣炎を合併しますが、不妊の原因となることはまれです。ムンプスの感染年齢は6歳までが大半を占め、特に保育園や幼稚園などの集団生活では感染の機会が多くなります。感染すると7～10日間は通園・通学が禁止となり、看病に当たる人も家事や仕事に大きな支障が出るかもしれません。

ムンプスワクチンは弱毒性ワクチンなので、一過性の耳下腺腫脹や発熱が2～3パーセントにみられます。また、0.01パーセント程度の確率で接種後に髄膜炎を発症することがあります。しかし、いずれの副反応もムンプスに自然感染するよりもはるかに低率であり、ワクチン接種をためらうほどではないと考えられます。ムンプスワクチンは1歳から接種できるので、お子さんが集団生活に入る前にぜひ検討してください。

（このコラムは市立病院 病院総務課 電話（260）0111が担当しています。）